

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成 28 年度 第 1 回学校関係者評価委員会

日 時 平成 28 年 4 月 15 日 16:30～17:30

会 場 横浜リハビリテーション専門学校 非常勤講師室

出席者 済生会神奈川病院関係者様、介護老人保健施設アゼリア関係者様、学校顧問、学校長、副校長、理学療法学科長、作業療法学科長、ほか教職員 5 名

内 容

I. 学校長挨拶

学生の学力低下、競合校との競争など、今後の本校運営において様々な課題があります。そこで、本校といたしましては、これまで以上に教職員で試行錯誤しながら学校教育を行い、本校教育の特徴を出していきたいと考えております。臨床現場の先生方より貴重な意見をいただき、学生教育に取り組んで行きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

II. 委員の紹介・変更について

本校顧問の村上先生にご出席いただきました。

本会議より、済生会神奈川病院の木下先生に学校関係者評価委員としてご出席いただくことになりました。どうぞ宜しくお願い致します。

III. 平成 27 年度報告事項および平成 28 年度課題（林副校長）

【平成 27 年度、横浜リハビリテーション専門学校 総括】

1. 平成 27 年度 総括

1) 国家試験合格率について

国家試験合格率は PT 学科 93.5%、OT 学科 100%である。PT 学科も全国平均を大幅に上回っているが、目標である 100%合格は達成できなかった。

2) 留年率について

27 年度目標を 4%以下に設定した。結果、両学科ともに 3%を下回る結果となった。結果良好の一要因として、強化組対策、個別の教員指導の成果が考えられる。

3) 退学率について

27 年度目標を 4%以下に設定した。結果、両学科ともに 4%を下回る結果となり目標は達成されたが、今後、退学率ゼロを目指して、学習指導、心理的サポート、進路に対する相談を継続していきたい。

4) 工夫された授業の割合

学生の自ら学ぶ姿勢を支援するため、本校ではアクティブラーニングの積極的な導入を目指しており、27 年度目標を導入率 40%に設定した。結果、平成 27 年度実績は 36.9%であり、目標達成に至らなかった。今後、学生が主体的に学ぶ環境設定、講義を取り入れることで、学習支援を継続していきたい。またデジタル教材、IT 学習システムを積極的に導入していきたい。

5) 障害者スポーツ授業回数について

目標数値を大幅に超える回数の講義を実施できた。目標は達成できたといえる。今後も実習科目を増やし、現場で学べるように学生支援をしていきたい。また、学生ボランティアとして、東京パラリンピックへの参加を促していきたい。

6) 認定または修士所得人数

現在、職業専門大学の教員基準は未確定であるが、その準備として認定理学療法士、認定作業療法士、大学院卒（修士）を増やしたい。

7) 就職内定率について

概ね良好である。特に年末までの就職内定率は、平成 26 年度に比べ大幅に向上した。就職指導部と連携し、きめ細かい就職指導を実施できたことが理由と考える。

8) 学生 1 人あたりの就職試験回数

大多数の学生が 1 回目の就職試験で内定をいただいている。特に作業療法学科では、現場で作業療法士不足の施設が多いため、就職は恵まれている状況である。面接試験対策として定期的に模擬面接を実施しているので、今後も継続していきたい。

2. 平成 27 年度 重点項目と達成状況

1) 新学校種への対応

事業企画部ならびに全国リハビリテーション学校協会より情報を集めている。スムーズな職業専門大学への移行のため、認定理学療法士、認定作業療法士の資格所得のための研修会参加を促進した。

2) 社会に必要とされる臨床家（プロ）の育成

就職先アンケート結果を基に、臨床家を目指すための学生教育について課題を検討した。理学療法学科では、臨床実習の変化に対応し、学生の高い教育効果を目指すために臨床実習における「臨床実習評価用紙」を改変した。

3) 社会貢献

学校の近隣住民を対象に、健康体操などのイベントを開催した。障害者スポーツに学生ボランティアとして関わり、大会運営補助を行った。今後も様々な領域で地域貢献を行っていきたい。

【平成 28 年度の業務計画】

1. 業務実施上のポイント

スムーズな職業専門大学移行を目指し、また、社会のニーズに対応した臨床家を育成するために、新しい教育機関を目指していきたい。東京オリンピック、東京パラリンピックの意識向上を図り、学園として競技サポートを実施していきたい。

学校説明会などのイベント、入学試験の実施方法などを検討するなど、入学者の確保と質の向上を目指す。

2. 重点項目

1) 新学校種への対応

総務部、事業企画部と協働し、新学校種への対応を円滑に実施したい。今年度中にロードマップを完成させたい。

2) 社会に必要とされる臨床家の育成

低学年より個別指導の強化を行いたい。入学後にウェルカムテスト、心理検査(エゴグラム)を行い、入学後より学生の個々の学力、情意面を把握したい。

実習施設訪問時に、実習指導者より学生の実習状況について聞き取りを行い、臨床現場の声を学内の学内指導に役立てたい。また臨床実習の評価用紙を学生、臨床現場の現状を踏まえ変更させていきたい。

3) 教育の質の向上

グループ学習、PBLなどを取り入れ、学生が主体的に学べる講義形式としたい。また実技授業を中心に卒業生の授業参加を促したい。工夫された授業の割合、卒業生の授業参加コマ数、学生1人あたりの就職試験回数、職員の認定資格所得人数を成果指標として設定する。

4) 社会貢献

今年度も1年次の障害者スポーツ特別授業や近隣住民向けイベントを開催することで、地域貢献、学生の地域参加を促したい。

3. 評価指標と目標値

1) 国家試験合格率について

両学科ともに、目標設定を100%にしたい。

2) 留年率

平成27年度実績は、両学科ともに3%未満である。実績を考慮した結果、4%以下で目標設定したい。

3) 退学率

平成27年度実績は、両学科ともに4%未満である。実績を考慮した結果、4%以下で設定したい。

4) 工夫された授業(PBL、グループ学習、ロールプレイング)の割合

平成27年度実績は36.9%であり、年々増加している。実績を考慮した結果、40%以上で設定したい。

IV. 自己評価表

1. 教育目標・理念(林副校長)

2. 学校運営(林副校長)

・新学校種創設に向けて移行準備プロジェクトチームを設け、準備を進めたい。

3. 教育活動(進捗状況)

【シラバス・カリキュラム(水島)】

・27年度は開講前に各教室のシラバス冊子を配置し、学生ネットワークに時間割と共に開示した。

【教育力向上(田中)】

・今年度は、アクティブラーニング、ICTを取り入れるため、研修会へ参加し、教員間で情報共有を図りたい。

【臨床実習(瀬古)】

・27年度は滞りなく業務を実施できた。28年度は人数入り確認文書に、学生割り振り作業にて学生人数が変動する旨を記載する。

【情報公開(水島)】

・専門大学化の情報も取り入れ、授業アンケート結果及び対応などの公開に関しては継続し検討する。

4. 教育成果

【資格・卒業研究(田中)】

- ・研究手法の検討、学生の能力、希望に応じた指導を検討していきたい。

【国家試験・卒業試験（瀬戸山）】

- ・国家試験の傾向、対象学生の状況など、情報を整理して学生指導に反映される分析を継続していく。
- ・国家試験対策を4年生のみに実施するのではなく、今後は他学年も対象に含め実施していく。
- ・本校専用の国家試験対策用の解説を携帯版に移行するに伴い、解説文章の様式を変更、過去5年以前の解説に関して追加するか検討する

【留年・退学者防止、卒業生（中村）】

- ・理学療法学科では、学力低下者に対する強化組対策を継続する。留年者が少なかった今年度3年生（17期生）について、今後の経過を追いながら強化を図る必要がある。
- ・作業療法学科では、強化組対策または早期の国家試験対策（土曜教室）を本年度も実施する。

5. 学生支援

【社会性（田中）】

- ・社会性に問題のある学生も認められるため、より個別性を重視した指導を行う

【行事（田中）】

- ・学園祭での地域作業所の出店は次年度も継続して行いたい。障がい者の方との触れ合いの機会を増やしたい。
- ・学生が主体的に楽しめる学園祭を支援すると共に、基本的に遵守しなければならない事項等の徹底を図る。

【個別指導（中村）】

- ・週1回の学科会議にて、定期的に学生に関する情報交換を行い、職員間で情報を共有したい。

【防犯、就職支援、災害対策、経済援助（宮野）】

- ・定期的な面談に加え、必要に応じては随時面談を実施した。必要に応じてスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等に対して、適切な対応を行った。
- ・岩崎学園奨学金を整備し、学生対応を実施した。
- ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。

6. 教育環境

【教室（宮野）】

- ・全学生にノート型PCを貸与している。IT教育導入のため、最新の環境を提供している。
- ・デジタル国家試験教材（LASQ）の更新を行った。
- ・スマートフォンを利用した国家試験対策教材を導入している。

【図書・設備・備品（杉山）】

- ・図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行い、蔵書利用者の増加を図る。
- ・図書室内保管蔵書の整理、在庫確認の方法について検討を行なう。
- ・製本時期について検討する。

7. 学生募集

【学生募集（宮野）】

- ・高校生の受験動向の変化に対応した入試制度や募集プログラムの立案をする。
- ・新設大学設立を受けた組織的・計画的な募集プログラムの立案をする。

8. 社会貢献・地域貢献（宮野）

- ・平成28年度より地域貢献の方法について再検討する予定

・平成 27 年度は高校生向け講座として、仕事のまなび場、夏季公開講座を実施。小中学生向け講座として、小中学生のためのチャレンジスクールを実施した。平成 28 年度は、昨年度のイベントに加え、中学生、高校生を対象に、新たな職業教育行事を実施していきたい。

9. 法令等の遵守

【法令遵守（林副校長）】

- ・職業実践専門課程の認定を受け、文科省にその第三者評価が設置され、検討会議委員に本校も参加した。
- ・PDCA サイクルの徹底に努める。

V. 質問・意見

橋本校長

留年率、退学率の平成 28 年度目標設定について、4%以下の設定目標を更に低い割合で設定してはどうか。

中村学科長

国家試験を考えると低学年での留年も必要な場合があると考ええる。

橋本校長

設定目標を 3%に下げてはどうか。十分達成できる数値と思われる。

林副校長

3.5%ではどうか。

中村学科長

留年率が下がった理由は再評価の対象者が増えたことが一因として考える。このシステムであれば 4%が妥当なラインと考える。

杉山教員

留年率目標は 3%の変更は現実的だが、退学率の 3%の変更はややハードルが高めか。平成 27 年度は 4%近くの退学率となっている。

田中教員

学生本人の希望、適正などを考えると、ただ割合だけで目標設定するのはどうか。

田中教員

進路変更を促すのも教員の役割であると考ええる。

杉山教員

退学率、留年率といった数値目標に質的目標も追加してはどうか。

林副校長

平成 28 年度目標は留年率を 3%以下、退学率を 4%以下で設定したい。

木下先生

今回、初めて会議に参加して学校の教育システムを知った。学生教育に力を注いでいると感じた。

大場先生

卒業生対象の職場アンケートは、現場サイドでも興味深い内容であった。

水島学科長

最近の新入職員の特徴はあるか。

大場先生

新入職員は学校のカラーが多少影響しているが、個人因子の影響が最も強いと思われる。先輩の意見を聞きながらやっていける人材が必要。人の意見、考えを素直に聞き、真摯に仕事に望む姿勢が必要と考える。

水島学科長

課題もある。入職後2ヶ月で退職した卒業生もいる。毎年みられる傾向だが、近年、入職後1年未満での早期退職者が増加の傾向である。

杉山教員

現場の先生からみた横リハ卒業生の印象はどうか。

大場先生

人当たりがよく、素直な学生が多い。他校の卒業生は技術、知識に偏る傾向があるが、横リハ卒業生は患者様の話をよく聞き、話に耳を傾ける傾聴スタイルができていて学生が多い。

木下先生

明らかな横リハ卒業生の学校としてのカラーはないと思われるが、横リハ実習生は現場で経験を吸収できる学生が多い。また素直な学生が多いので指導しやすい。

林副学校長

裏をかえせば指示待ちの態度で、自分で動けない、主体性が不十分な学生が多いのかも。

大場先生

そこは個人因子が影響していると考え。自分なりに気づき、そして考えて行動できる卒業生は多いと思われる。

橋本校長

今まで卒業生に対するアンケートは実施していたのか。

中村学科長

今年初めてアンケートを実施した。

橋本校長

卒業生の同僚にも実施してはどうか。情報量が多いとより深い分析ができると思われる。

中村学科長

現在、アンケートの対象者、実施時期について岩崎学園全体で検討している。

水島学科長

実施方法として、紙ベースではなく、ネット経由でアンケート調査ができるとよいかも。今回は業者委託で実施したので費用がかかった。作業の効率化、コスト削減につながると思う。

中村学科長

アンケートの他、実習訪問時に卒業生へのヒアリングを継続することで情報を集め、学内での学生指導に活かして行きたい。

V. 次回の会議について

次回の会議開催についてですが、開催時期を考慮した結果、平成28年10月28日（金）に開催する方向で調整させていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

以上

文責：杉山